



特別会計(5会計)の決算

(単位:億円)

会計名	収入	支出	差引
国民健康保険	95.2	95.2	-
介護保険	102.6	99.6	3.0
後期高齢者医療	18.2	17.7	0.5
産業団地	21.7	21.7	-
公債管理	107.6	107.6	-
合計	345.3	341.8	3.5

市の会計には「一般会計」とは別に、国民健康保険や介護保険などの特定の事業を運営する「特別会計」と、病院や水道など民間企業のように事業収益を集めて運営する「企業会計」があります。

※企業会計では、資本的収支の不足分を、事業を運営して生じる純利益と現金支出を伴わない費用から生じる内部留保資金で補っています。

特別会計と企業会計

企業会計(3会計)の決算

(単位:億円)

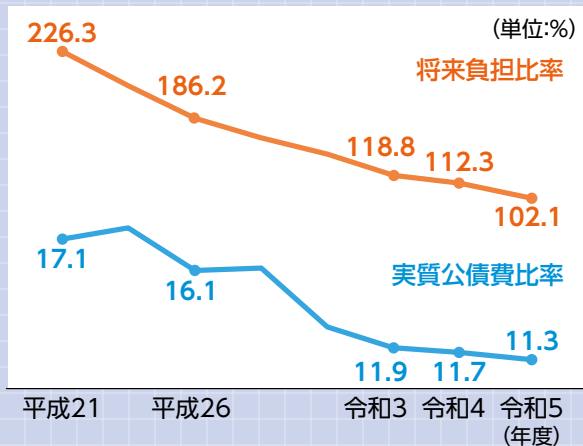
会計名	収益的収支			資本的収支		
	収入	支出	差引	収入	支出	差引
水道	26.9	22.3	4.6	0.9	9.5	▲8.6
下水道	41.6	39.2	2.4	32.2	52.4	▲20.2
市民病院	100.1	98.6	1.5	9.1	13.4	▲4.3
合計	168.6	160.1	8.5	42.2	75.3	▲33.1

収益的収支

1年間の営業結果を表します。

資本的収支

施設の建設や整備に関する収支です。



健全化判断比率の指標については、実質公債費比率が前年度比0.4%改善して11.3%、将来負担比率が前年度比10.2%改善して102.1%となりました。今後も引き続き、健全な財政運営に努めます。

※実質公債費比率とは、収入額に対する借金返済額のことです。将来負担比率は収入額に対して市が抱えている負債の割合のことです。

健全化判断比率の状況

令和5年度決算報告

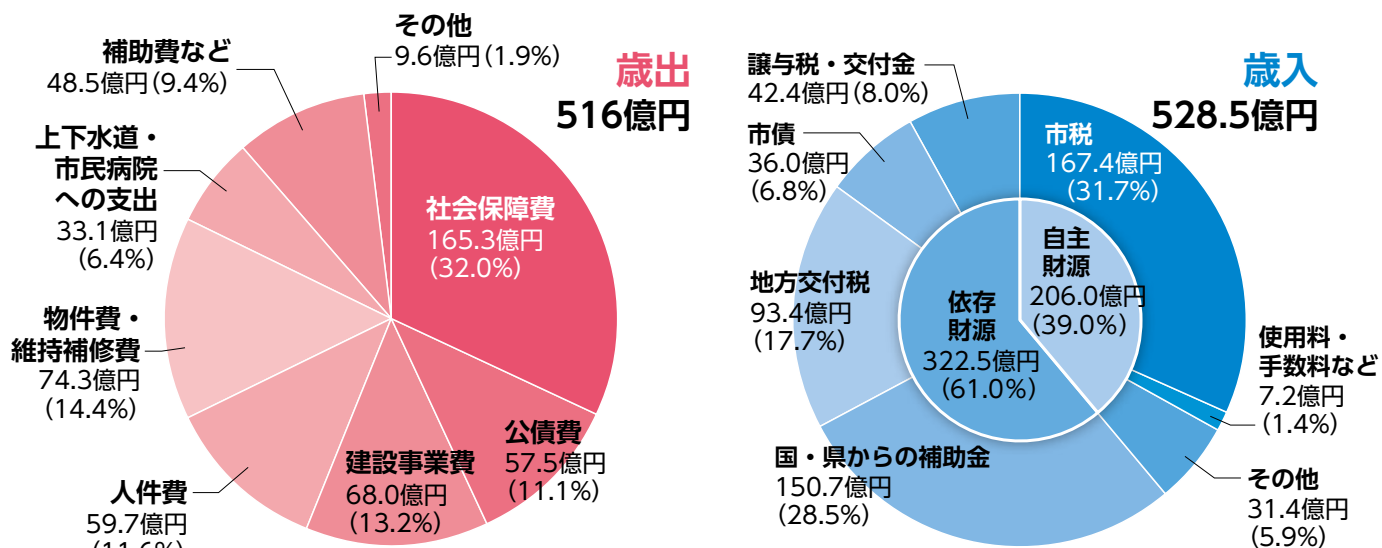
決算のあらましと市の財政状況

令和5年度(令和5年4月～令和6年3月)の決算についてお知らせします。

問い合わせ

財政課 ☎24・8144

一般会計の決算 ※()内は構成比

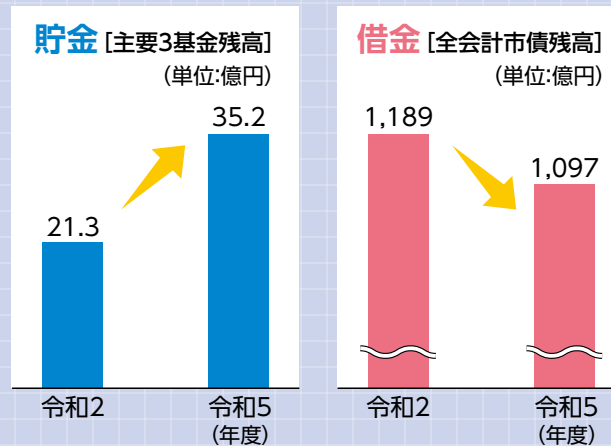


歳入歳出差引: 12.5億円 翌年度繰越財源: 4.2億円 実質収支: 8.3億円

令和5年度決算の特徴

- 歳入では、賃上げによる個人所得の伸びや製造業を中心とした設備投資の増加など市税の増収、災害復旧及び除雪などに多額の経費がかかったことによる地方交付税の大幅な増額などにより、歳入総額は、528.5億円の決算額となりました。
- 歳出では、北陸新幹線小松駅開業や産業創生に向けた積極的な事業展開、小中学校の給食費無償化のほか、物価高騰対策や令和4年大雨及び令和6年能登半島地震災害からの復旧・復興などに対応しながらも、国や県の補助金の有効活用、効率的な予算執行に努めた結果、歳出総額は、516億円の決算額となり、収支としては8.3億円の黒字決算となりました。
- 世界に時めく日本海側の拠点都市こまつ
- 北陸新幹線小松駅開業
- 小松駅空港間の自動運転バス運行
- ものづくりが誇りの産業創成都市こまつ
- 安宅新産業団地への進出企業公募
- 子どもたちが輝く未来創造都市こまつ
- 全小中学生の学校給食費無償化
- 誰もが暮らし続けられる
- 生涯安心都市こまつ
- 手術支援ロボットを導入
- 自然が映え文化が息づくふるさとこまつ
- 加賀国府こまつ歴史の里整備
- ワンランク上の生活空間あふれるこまつ
- 未来型図書館づくりの推進

市の借金残高・貯金残高



令和5年度の市債(借金)残高は、定時償還額の減少や繰上返済などにより約50億円改善し、全会計で約1,097億円となりました。

貯金(主要3基金・決算積立後)は、産業創生のための将来に向けた投資などに備えて基金を積み立てた結果、令和5年度末は、35.2億円となっています。

※主要3基金とは、財政調整基金、地域経済活性化対策基金、減債基金の3基金のことです。